

令和8年度 第2回 伊丹市学校教育審議会(義務教育部会)

議題2「子どもたちが多様化していることを前提とした学びのあり方①」

- 1 本議題の位置付け
- 2 前回の審議から
- 3 「多様化する子どもたち」とは
- 4 子どもたちに合った学びのあり方とは
- 5 伊丹市の「カラフルな教育」とは
- 6 ご審議にあたって

<巻末資料>



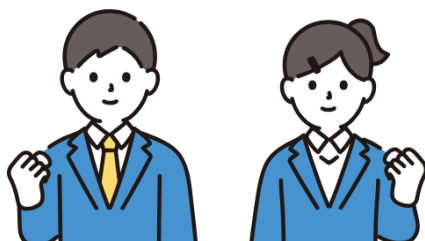
1 本議題の位置付け

- ✓ 本議題は、**テーマ①「目指すべき義務教育の姿」**に位置付けられるもので、今回と第3回目にわたり、「多様化する子どもたちを前提とした学びのあり方」について、ご審議いただきたいと考えています。
- ✓ 今回は、その前提となる「多様化する子どもたち」に焦点を当てるとともに、本市が進めてきた「カラフルな教育」の考え方や取組を共有しながら、これからの学びのあり方についてご審議いただきたいと考えています。

【義務教育部会で審議する3つのテーマの概要（第1回目資料から）】

テーマ① 目指すべき義務教育の姿 (どのような教育を実現したいか)

- ✓ これからの時代に求められる学びや教育のあり方とは何か。
- ✓ 次期学習指導要領や本市の取組の現状と課題を踏まえてご議論頂きます。



主な論点

- **多様化する子ども達を前提とした学びのあり方**
- 義務教育9年間を通じた学びのあり方
- これからの義務教育を担う教職員のあり方

テーマ② 義務教育を支える教育環境のあり方 (目指すべき義務教育に必要な環境は何か)

- ✓ 多様な子どもたちの学びや育ちを支えるためにどのような教育環境が必要か。
- ✓ 全国の最新施設の動向等も参考にしながらご議論頂きます。

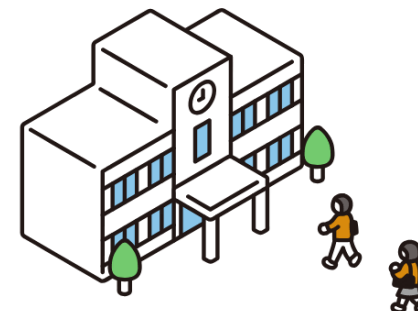


主な論点

- 多様な学びを支える教育環境のあり方
- 教職員の働く環境のあり方

テーマ③ 学校の適正規模のあり方 (目指すべき義務教育に適した規模とは何か)

- ✓ 教育活動や学校運営にとって望ましい施設の規模はどの程度か。
- ✓ 国の手引きや本市の現状や将来推計を踏まえてご議論頂きます。



主な論点

- 学校規模と教育活動等の関係
- 将来の児童生徒数・学級数推計を踏まえた教育環境のあり方

2 前回の審議から

(1) 委員の皆様のご意見から

■ 子どものたちの多様化について

- ✓ 不登校傾向にある子ども、特別な支援を必要とする子ども、日本語指導を必要とする子どもなど、1つの学校においても、多様な背景や特性を持つ子どもたちが在籍している。

■ 学びの多様化について

- ✓ 学習進度や興味・関心は一樣ではなく、高い専門的関心を持つ子どもや特定分野で能力を発揮する子どもなど、普通学級の児童生徒を含め多様な学びのニーズがみられる。

■ 学校に求められる役割

- ✓ 学校現場には様々な背景や特性を持つ子どもが在籍しており、一人ひとりの「困り感」や状況を把握しながら、それぞれに応じた教育を行うことが求められているのではないかと。また、そのためには教職員間での情報共有や支援体制の充実が重要である。
- ✓ 長期欠席や不登校の背景は多様化しており、教室に入りづらい子どもに対するサポートルームなど、多様な学びの場の必要性や、子どもだけでなく保護者も含めた支援の重要性が増すと考えられる。
- ✓ 一方で、学校側の負担についても考慮する必要があるとあり、教職員の皆さんが働きやすい環境や体制をあわせて考えていく必要があるのではないかと。

■ 20年先を見据えた議論について

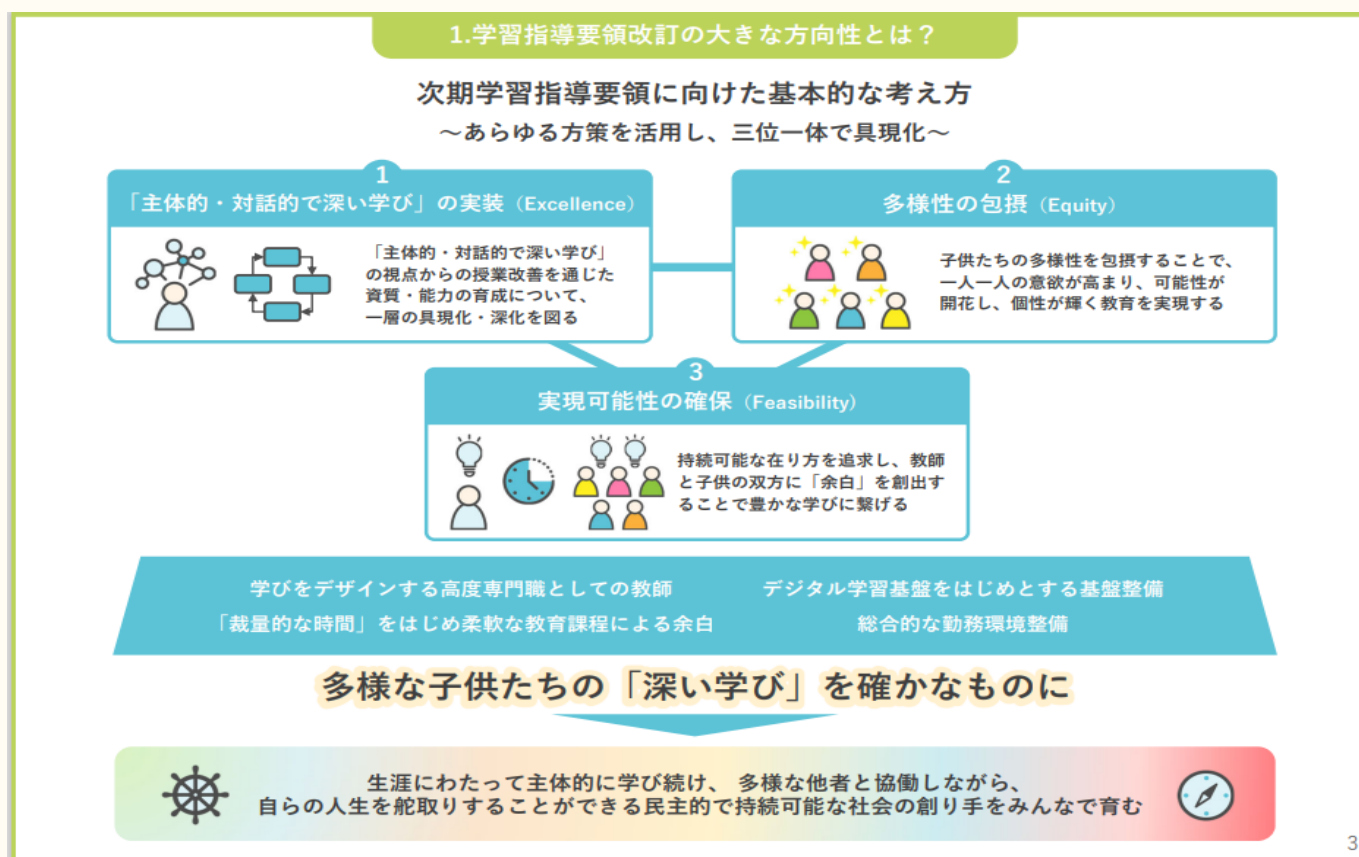
- ✓ 20年先を見据えた計画であることを踏まえると、現在の課題だけに捉われるのではなく、AIをはじめとするデジタル技術の進展など、将来の社会や子どもたちの姿を見据えながら、議論することが必要ではないかと。



2 前回の審議から

(2) 国の方向性

- ✓ 学習指導要領とは、「全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準」のことです。
- ✓ 現在、国では、2040年頃の社会を見据え、多様化する子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す学びや、これからの時代に求められる資質・能力の育成のあり方について議論が進められています。



2 前回の審議から

(3) カラフルな教育とは

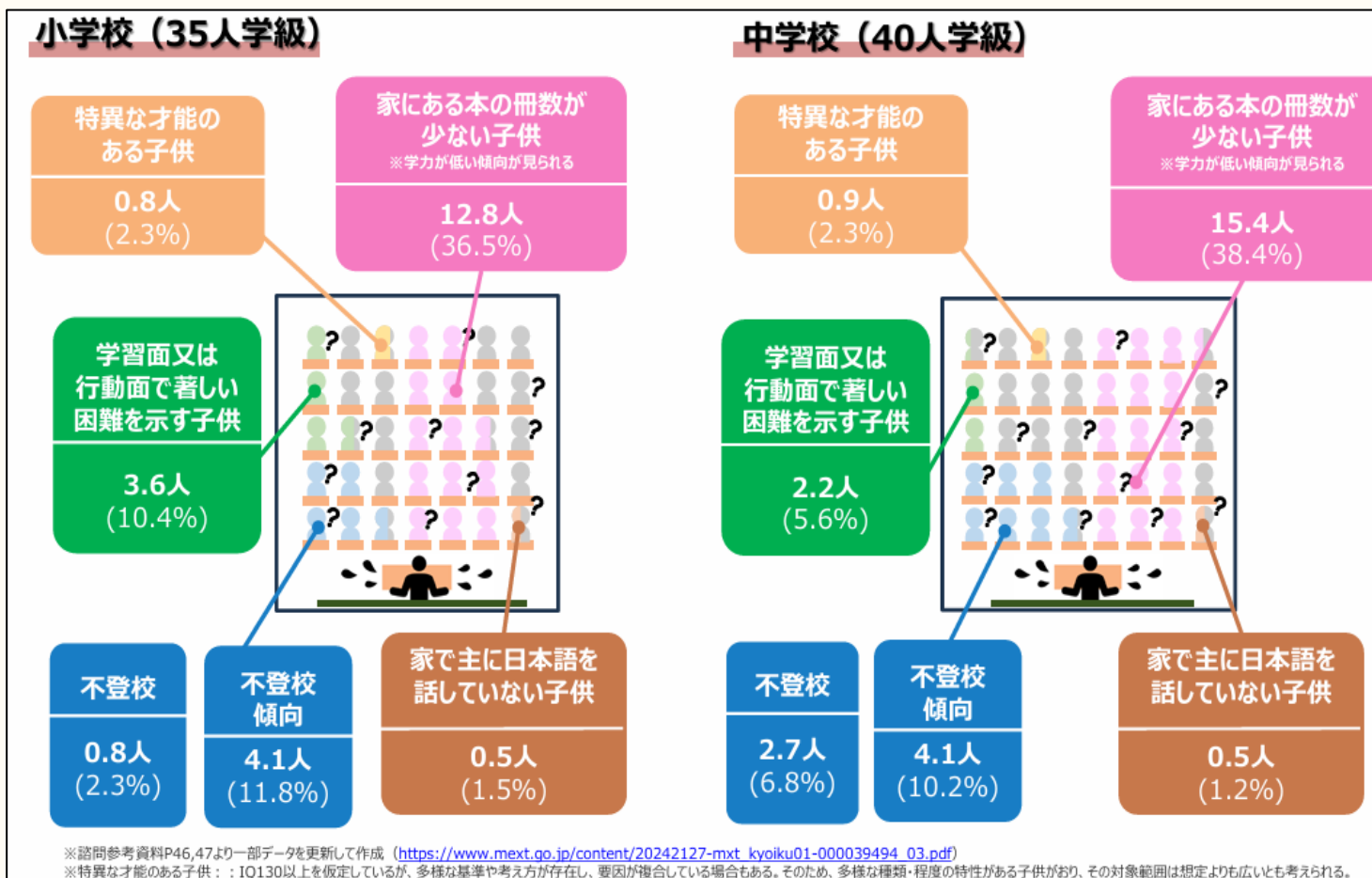
- ✓ 前回の部会で話題に上がった伊丹市の「カラフルな教育」とは、「これまでの一斉指導が果たしてきた役割を踏まえつつ、多様な教育ニーズに対応するため、集団での指導を基盤にしながら、1人1台端末の活用も含め、子どもたちの持つ個性や能力、興味関心に応じて多様で柔軟な学び方を支援し、ちがいを豊かさに変える教育」のことです。
- ✓ 「子どもによって学び方や得意なことは違う」という前提に立ち、一人ひとりが力を発揮できる授業をめざします。



3 「多様化する子どもたち」とは

(1) 多様性の顕在化① 国全体

- ✓ 全国の多くの学校で、多様な個性や特性を有する子どもが在籍している実態が顕在化しています。
- ✓ 次期学習指導要領の議論の前提にもなっており、「一人一人の意欲を高め、可能性を開化させる教育の実現が喫緊の課題」と認識されています。



3 「多様化する子どもたち」とは

(1) 多様性の顕在化② 伊丹市

✓ こうした状況は、伊丹市においても同様のものと推定されます。

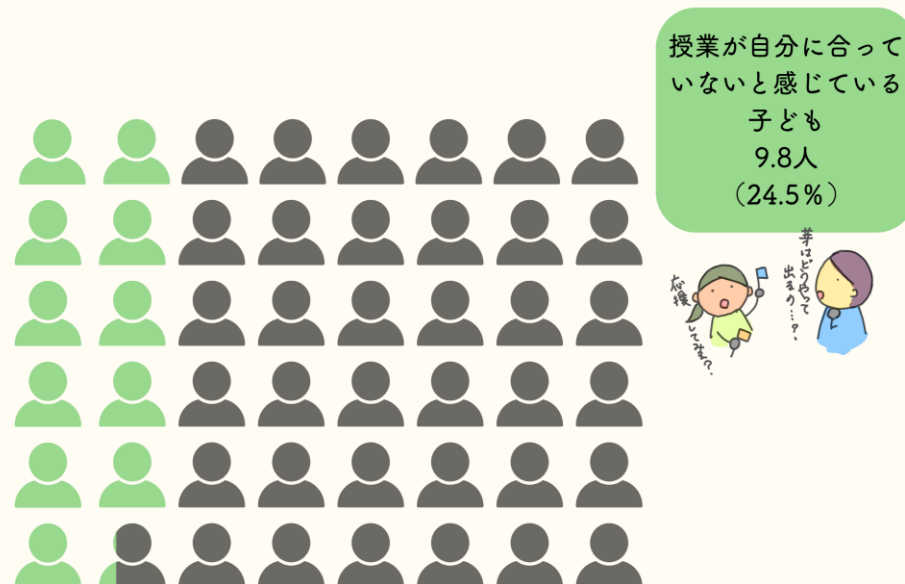
※なお、前頁の国による整理とは使用データが異なるため相対比較はできない。

小学校（35人学級）



伊丹市（小学校）

中学校（40人学級）



伊丹市（中学校）

出典）令和7年度全国学力・学習状況調査結果をもとに調査研究として、総合教育センターが試作（R8.6）



4 子どもたちに合った学びのあり方とは ①全国の事例から



愛知県名古屋市立山吹小学校

- ・子どもたち自身が「いつ、何を、どのように学ぶか」を選択・決定し、自分の学習計画に基づいて学ぶ時間の様子。
- ・「どこで学ぶか」も子どもたちが選ぶことができるよう、教室内の配置も多様な活動に対応できるレイアウトとなっている。

出典)文部科学省「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』

4 子どもたちに合った学びのあり方とは ②伊丹市の実践から

<資料非公表>

当日掲載内容 伊丹市内の学校の教室内で実施される学習活動の様子(写真)

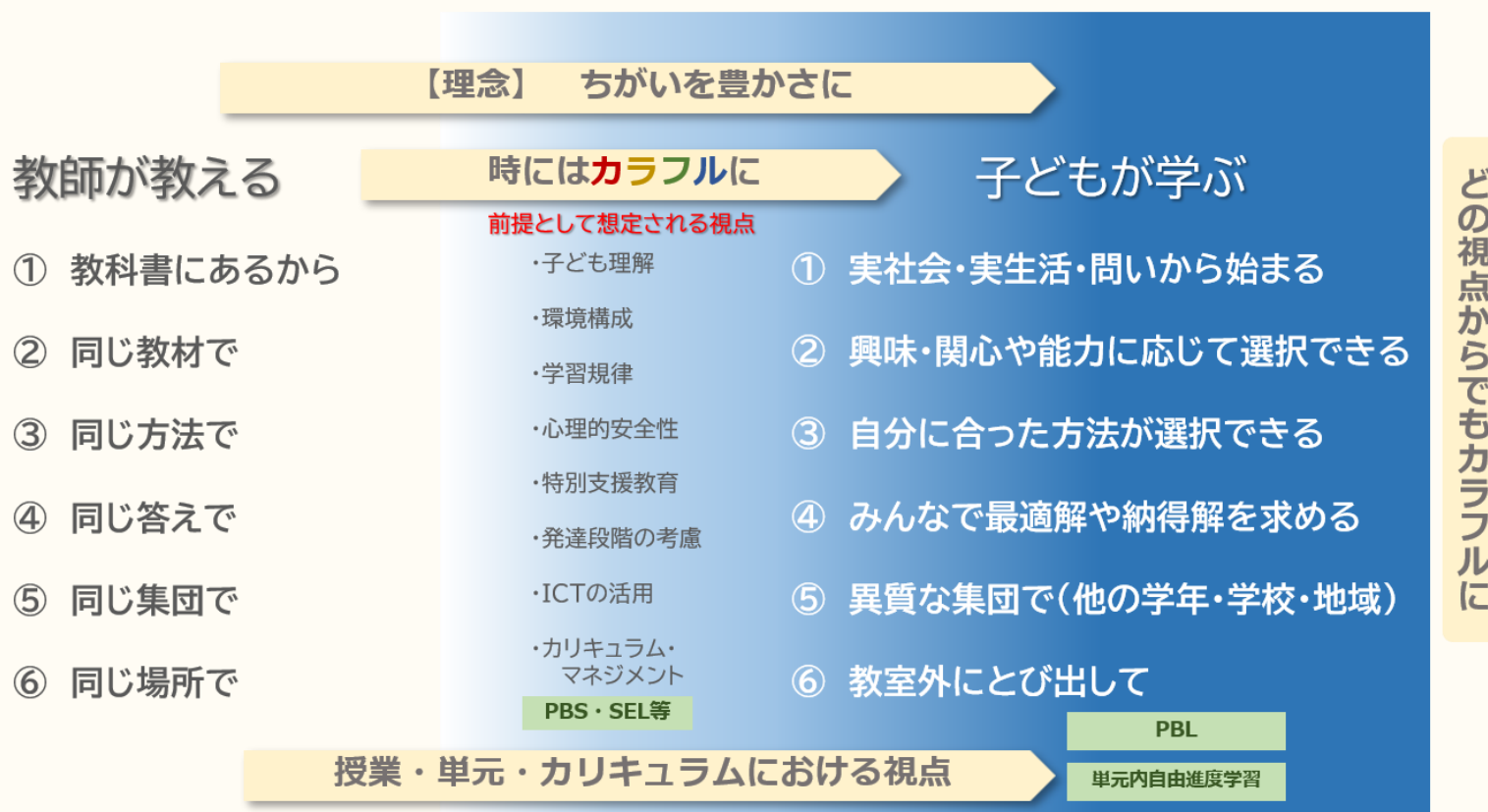
非公開理由 個人や学校が特定される可能性があるため



5 伊丹市の「カラフルな教育」とは現状

- ✓ 伊丹市がめざす「カラフルな教育」は授業改善であり多様な実践が想定されます。高度で壮大な実践ではなく、先生が日々の授業で既に実践されていることにも多くの要素があることや、さらに広げていくため学校との協働」をめざし「カラフルな視点」を軸に授業改善の指導助言や伴走支援に活用してきました。

「カラフルな教育」の具体化に向け、視点を学校と共有し、明確化する



出典) 令和6年度総合教育センター作成 カラフルな視点(概要版)



5 伊丹市の「カラフルな教育」とは現状

- ✓ 伊丹市がめざす「カラフルな教育」は授業改善であり多様な実践が想定されます。高度で壮大な実践ではなく、先生が日々の授業で既に実践されていることにも多くの要素があることや、さらに広げていくため学校との協働」をめざし「カラフルな視点」を軸に授業改善の指導助言や伴走支援に活用してきました。

総合教育センター

カラフルな視点を学校と協働して考える
「カラフルな教育」の具体化に向け、視点を学校と共有し、明確化する

【イラスト版】

教師が教える教室

子どもの学びの姿：聞く 先生の姿：話す・説明

① 教科書にあるから



② 同じ教材で



③ 同じ方法で



④ 同じ答えて



⑤ 同じ集団で



⑥ 同じ場所で



時にはカラフルに

カラフルな視点をいっしょに考えましょう

【理念】 ちがいを豊かに

子どもが学ぶ空間

子どもの学びの姿：話す・つばやく・尋ねる 先生の姿：聞く・待つ・つなげる

① 社会・生活・関心から始まる



② 興味・関心に応じて
自分の能力に応じて 選べる



③ 自分に合った方法が選べる



④ みんなで最適解や納得解を



⑤ 異質な集団で
(他のクラス・学年・学校・地域)



⑥ 教室外にとび出して
(外から教室へ)



出典) 令和6年度総合教育センター作成 カラフルな視点(イラスト版)



5 伊丹市の「カラフルな教育」とは 成果と課題

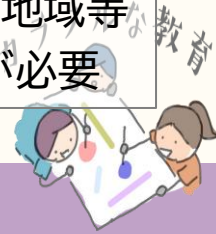
- ✓ 伊丹市がめざす「カラフルな教育」は親しみやすいキーワードで学校現場をはじめ、少しずつ広がりを見せています。教室で従来の一斉指導を大切にしつつ、もっと子どもたちが主体となるような学びを模索する実践も増えてきました
- ✓ 一方で「カラフルな教育」の軸となる「授業改善」は、学習指導法の改善や協働的な学び、教育のユニバーサルデザイン化といった様々な要素が含まれ、多様な取組や概念を包括する言葉として機能しています。その前提にある子どもの多様性や学びのニーズの幅広さもあわさることで、高度で複雑なものと捉えられたり、個人での解釈がやや大きくなりすぎる懸念もあります。

■ 成果

- ✓ 親しみやすいキーワードで学校をはじめ、SNS等も通じ広く一般の人にも情報発信してきた
- ✓ カラフルな教育をきっかけとした授業実践が広まっている
- ✓ 次の学びを見据えた自主的な研究グループも多く存在し、総合教育センターの事業として支援している

■ 課題

- ✓ 軸となる授業改善は各学校での課題改善を前提に教育の質の向上をめざすものであるがゆえに解釈の幅が広い
- ✓ 次期学習指導要領に関する情報は多く、変化に対応するための体制づくり(教職員研修等含む)は喫緊の課題
- ✓ 子どもの学び方を支える上では、環境整備も重要
- ✓ 教育行政、学校、子ども自身、保護者・地域等多様な立場の人とのビジョンの共有が必要



カラフルな教育



6 ご審議にあたって

本市が進める「カラフルな教育」の現状と課題、次期学習指導要領の論点整理における主体的・対話的で深い学び、多様性の包摂に触れながら、今後、どのような学びのあり方を目指すべきかについてご審議頂きたいと思います。

<ご審議の観点>

- ① 子どもたちの個性や特性、学習進度、興味・関心などが多様化する中、20年先を見据え、今後の学校はどのような学びを展開していくべきでしょうか。
- ② そのような学びの実現に向けて、必要となる**教育の仕組み**や**教育環境**にはどのようなものがあるでしょうか。
- ③ これからの義務教育を支える教員の資質向上として、必要な体制はどのようなものでしょうか。

